

佐賀県研究成果情報（作成 2021年3月）

[情報名] 四季成り性イチゴ「すずあかね」の夏秋期の収量は5月定植が多い

[要約] クラウン部局所冷却下における四季成り性イチゴ「すずあかね」の夏秋期の収量は、5月定植で最も多くなる。また、商品果率は、定植時期にかかわらず同程度である。

[キーワード] 四季成り性イチゴ、「すずあかね」、夏秋栽培、定植時期

[担当] 上場営農センター・研究部・畑作・野菜研究担当

[連絡先] 0955-82-1930・uwabaeinousenta@pref.saga.lg.jp

[分類] 技術者参考

[部会名] 上場営農専門部会

[専門] 栽培

[背景・ねらい]

夏秋イチゴは需要が高く、単価も高く安定しており、魅力的な品目である。しかし、夏季高温条件での栽培となるため、収量や品質が低く、安定した所得確保が難しい状況である。そこで、上場地域における夏秋イチゴの安定栽培技術を確立する。ここでは、四季成り性イチゴ「すずあかね」における定植時期の違いが夏秋期の収量性に及ぼす影響について明らかにする。

[成果の内容]

1. 3月、5月、7月定植における夏秋期（7～10月）の商品果収量は、5月定植で最も多く、3月定植と比較して15%多くなる（図1、2）。
2. 商品果率および果実品質別割合は、定植時期にかかわらず同程度である（表1、2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 供試品種「すずあかね」は、ホクサン株式会社の登録品種（2007年登録）である。
2. 高設栽培（培土：イチゴ高設培土唐津型）において、定植直後から試験終了時までチラー（RKS400-FS、O社製）と冷却用ポリエチレンチューブ（K社製）を用いてクラウン部を20程度に制御した中で得られた成果である。
3. 定植後約10日間の間に出蕾した花房は除去した。
4. ハウス内が高温になりすぎる場合は、花芽分化がしにくくなるため、寒冷紗等による遮光や細霧冷房、換気扇等を活用し下温に努める。

[ 具体的なデータ ]

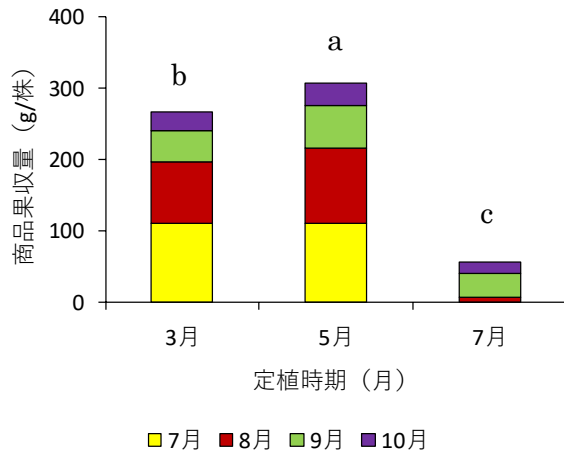


図1 定植時期の違いによる夏秋期(7~10月)の収量(2020年)

図2 8月の着果状況(5月定植)

注1) 異なるアルファベット間にはTukeyの多重検定により有意差あり (5%水準)

表1 定植時期の違いによる収量性

年度	定植時期	総重量 (g/株)	総果数 (個/株)	商品果収量 (g/株)							合計	商品果数 (個/株)	商品果率 (%)	商品1果重 (g/個)
				5月	6月	7月	8月	9月	10月					
2018	5月	349	64	0	5	127	67	37	11	247	24	37.4	10.4	
	7月	81	23	-	-	0	23	31	1	55	8	32.9	7.1	
2019	5月	322	46	0	0	128	98	45	-	271	27	59.3	10.0	
	7月	62	16	-	-	0	20	22	-	42	5	33.3	8.1	
2020	3月	472 a	69 a	14	118	110	86	44	27	400 a	39 a	57.3	10.2	
	5月	361 b	60 a	0	1	110	105	59	32	308 b	32 a	52.8	9.7	
	7月	64 c	11 b	-	-	0	7	33	16	56 c	6 b	56.5	9.3	
有意性		*	*							*	*	n.s.	n.s.	

注1) 定植日は、各月の15日前後

注2) 試験規模：2018~2019年；10株の反復なし、2020年；10株×2反復

注3) 2020年度の異なるアルファベット間にはTukeyの多重検定により有意差あり (5%水準)

表2 定植時期の違いによる果実品質別割合

年度	定植時期	上物率 (%)	中物率 (%)				下物率 (%)		
			変形果	小玉果	先青果	小計	奇形果	屑果	小計
2018	5月	6.9	12.3	17.8	0.2	30.2	8.2	54.7	62.9
	7月	2.6	8.5	20.9	0.9	30.3	0.9	65.0	65.8
2019	5月	3.3	38.7	17.1	0.2	56.0	10.3	30.3	40.7
	7月	3.8	18.6	10.9	0.0	29.5	10.9	56.4	67.3
2020	3月	3.0	26.1	27.9	0.3	54.3	1.7	41.0	42.7
	5月	1.4	21.5	29.7	0.2	51.4	1.1	46.0	47.1
	7月	8.4	19.2	29.0	0.0	48.1	0.0	43.5	43.5

注1) 正常果のうち、重量で上物 10g>小玉 5g>屑とした

注2) 果形の乱れの程度が商品果となる場合は変形果、ならない場合は奇形果とした

[ その他 ]

研究課題名：周年雇用型経営創出のためのイチゴ生体情報と短期植替えを駆使した生産力強化技術の開発

予算区分：県単

研究期間：2018~2020年度

研究担当者：伊東寛史、原田克哉、平野優徳、中島正明、浦田貴子

発表論文等：なし